

<テーマ1：重心児者・医ケアが必要な人たちの生活について>

<1-Aグループ>

○大変に思っていること

- ・浴室の環境、車いすが乗る車両、発電機の購入などお金がかかる。
- ・事業所の人手不足、看護師不足
- ・送迎をしてもらえない事業所もあるので、家族送迎のため負担がある
- ・毎日、生活介護に通所できない
- ・災害時の電源確保

○支援者に求めること

- ・本人、家族と支援者の関係づくり
- ・いろんな体験をさせてやりたい
- ・困り感を家族と共有する



<1-Bグループ>

- ・入所施設やグループホーム入所、近所のかかりつけ医を探すことが簡単ではない
- ・病気や医療的ケアの種類によってショートステイや入所を断られる
- ・介護者が急に倒れた時に対応できるよう日頃からのつながりが大事
- ・親が動けなくなった後の書類関係や申請が心配
- ・身だしなみを気にしてもらえなかったり、安全管理が不安な場面があるが、お世話になっているので気持ちが複雑な時がある

※生活に密着した話を語り、自分の力では変えることが出来ない状況の中で、工夫しながら生活していることに勇気をもらうことができた。



<テーマ2：精神障害・にも包括について>

<2-Aグループ>

○当事者より

- ・情報が入って来づらい
- ・自由に本心が言えているのか、権利が守られているのか
- ・一緒に楽しみながら、一步を踏み出す機会を！

○支援者より

- ・本人の話をしっかり聞いて支援したい。
- ・1対1で対話する時間を大切にしたい。
- ・なんとなくつながっていることが安心につながっていることもある。
- ・支援者が家族とのコミュニケーションがとりづらいことがある。
- ・支援者同士のつながりも大事

<2-Bグループ>

○現状気になっていること

- ・人は人、自分は自分—と言っているけど、他人から言われることが気になって行動できない人が少なくない。
- ・コロナ禍で人とのかわりが絶たれた時には、鬱々とした状態になった。
- ・人と出会いたいという思いをもっているけどなかなか出会えない人がいる。

○提案

- ・自分の好きなこと、楽しいこと、やりたいことをもつ。
- ・縁はどこにあるか分からないので、声をかけたりかけられたりをしていく。
- ・世代の違う人が交流する場は広がりが期待できる。

令和8年度 赤磐市障害者自立支援協議会 全体会・研修会グループワークまとめ

<テーマ3：誰もが暮らしやすいまちづくりについて>

○それぞれが「暮らしやすく」なるために

- ・坂道ではなく、エレベーター等で上下に移動できて、水平に動ける通路を確保して。
- ・熊山駅：車イスで使えるように。駐車場が遠い。駅前のにぎわい。
- ・移動手段の確保。バスが少ない。送迎サービスなど細かなものを考えて。
- ・見えにくい障害、わかりにくい障害について、もっと考えることができれば。
- ・マルシャのような催しを通して、一般の人も引き入れて一緒にできれば。
- ・子どもや若い人の柔軟な発想が大事では。

<テーマ4：防災について>

- ・避難所に行けない人たちが取り残されないためには。静かに過ごせる場所があればいい
- ・普段通っている（保育園や療育機関等、子供たちが安心して過ごせる）ところで避難させてほしい
- ・当事者よりもまず支援者が落ち着いて行動出来ることが必要
- ・民間のシステム「命のカルテ『sitte（シッテ）』等を活用してはどうか。そもそも避難が難しい人達の声을上げていくことが大切
- ・社会福祉協議会主催の話し合いは今年で3年目になるが、避難が大事であり、誰かが誰かに声をかける、互いに何が出来るか考える等、段々と具体的な話し合いになってきている。



令和8年度 赤磐市障害者自立支援協議会 全体会・研修会グループワークまとめ

<テーマ6：学校・園との連携について>

※そもそも連携とは！？と、皮切りに「確かに!!」ということで話し合いがスタートした。

- ちょびっとの連携、大切！
- コミュニケーションツール、指文字、イラスト、音声などなど、その人によって変わるところの細やかな引継ぎや、微妙なニュアンスを伝えられると、こどもたちも安心
- 小1になる時や新しく放デイへの行く時のケース会議、使っている支援グッズの共有
- お互いにケース会議があると嬉しい。保護者・本人の安心につながる！
- 送迎時の過ごし方や、その日のその時の様子が知れるとありがたい。

<テーマ7：子どもとのかかわり方、子育てについて>

- 時代の変化の中で取り残されたり、振り回されたりする今のこどもたちに何が必要か
- こども同士や、世代を超えたつながりができる居場所が必要
- 既存のものでなく、その子その子に合わせた居場所や支援があればもっといい
- 保護者も気軽に相談できたり、つながりができる居場所や機会が必要だろう



<テーマ8：卒業後の生活について>

- 子どもは地域の中でみんなで育てていく。
- 早い時期から将来を見据えた支援、取り組みをおこなっていく。
- 本人の持っている力を見極めながら、自立と社会参加を進めていく。
- 就労に向けて準備すべきこと、働くために必要ないろいろな力（ライフスキルなど）をつけていく
- 生活力を身につけていくために、いろいろな経験を積み重ねていく。 自己選択・自己決定にもつながる。
- 環境の変化への弱さに対して変化に慣れ、柔軟性や耐性を養っていく。

<テーマ9：はたらくことについて>

- 何のために働いているんだろう…と思うくらい忙しく働いているが、人のため？自分のため？と考える事がある。
- はたらくためには、自分で自分の事がわからないと難しい。
- 一般就労に向けての相談を受ける事があるのでアドバイスをしているが、働くには体力が必要である。
- 利用者に提供する作業を確保するため仕事を探してこないといけないので大変
- 外部から依頼された作業なので速さより正確性を重視しているが納期があるので厳しいこともある。

